

## Web 言語調査による若年世代方言の全国分布

吉田健二，南波茉奈

全国規模の言語調査は、『日本言語地図』を嚆矢として最新の『新・日本言語地図』まで時期をへだてて行われているが、後者でも主に現在 75 歳以上の最高年齢層のデータであり、その後の世代におきた変化を見わたすことはできない。発表者は Web アンケート作成ツール CREATIVE SURVEY を用いた全国調査により 47 都道府県、1396 人から回答を得、現在の若年世代方言の分布を検討した。調査項目は上記調査のものを中心とする 22 項目。発表では調査時（2018 年）に 39 歳以下だった 1253 名のデータの地理的分布をみる。言語地図は統計言語 R の maptool 関数等を持ちいて、Natural Earth 提供の白地図上に記号をプロットして作成した。地点は自己申告によるが（5-15 歳で最も長くすんだ市区町村）、近年の全国調査と酷似する、あるいはそこでの予測と合致する地理的分布が得られており（「瘧」三井はるみ 1999 「新しい方言と古い方言の全国分布」『日本語学』18-13, 「自動車学校の短縮形」日高水穂 2009 「自動車学校か自動車教習所か」『日本語学』28-14）、信頼性があるとかがえられる。知見の一部を挙げると、「瘧」の分布は、三井論文で近畿までの拡大が報告されるアオタネが沖縄宮古島まで到達し、クロ系が後退しアオ系が勢力を拡大している。断定辞「だ」の分布は『新・日本言語地図』と概略一致するが、ジャが山陽以外で勢力を失い、九州のバイ・タイも西日本一帯で勢力をつよめるヤの進出をうける。「おそろしい」にヤバイがみられ（59 人）、いわゆる若者言葉の定着の可能性をうかがわせる。「おもしろい」で関西弁のオモロイが全国に拡大している。「おそろしい」のコエ、「ありがとう（買い物時）」のへバ、「しなかったら」のシネバ・サネバなど東北日本海側のみ分布する方言形がまとまってみられ、一定の独自性をもつ方言圏が成立している可能性がうかがえる。これらの結果は、若年世代方言にも、標準語化による平準化のみでなく、かつての分布域を基盤とした勢力変化、新形式の進出、新方言圏の現出など、記述研究に値する動向がみられることを示唆する。